

避難者支援活動における現状報告とご協力のお願い

さて、私共「つなぐ光」は3月11日におこりました東北地方太平洋沖地震において被災された「妊婦の方、子供連れの家族」を、安心して安全な沖縄県にて受け入れるための「受け皿活動」をしています。これまで、沖縄県の恩納村において、中期滞在施設の「ゆいまーるの杜」をお借りした滞在支援、および、夏休みに福島県の20名の子供たちの受入れる支援などに取り組み、その活動に対して、全国の方からご寄付を賜りましたこと、深く感謝いたしております。

10月15日に一旦活動が終了となった「ゆいまーるの杜」は、有り難いことに、11月1日より、あらためての形として、2012年3月末まで避難者さんを受け入れる体制が整いました。現在、すでに9名の方が「ゆいまーるの杜」に滞在しています。

なお、どうして、まだ避難者が増えているのかということ、放射線の不安が拡大し続けているという理由です。そして、冬休みの前後は、再び、満室になる予約状況となっています。東北などで不安をお持ちの方が、せっかく沖縄県を選んで避難をされているのであれば、我々は、喜んで、このご家族の滞在支援をさせていただきたいということです。

また、この様な支援活動は、本来は県の行政が行えばよいと思うのですが、この避難者は、全員、県の条件には当てはまらない家族ばかりです。県の支援は手厚いですが、福島県から来る方には、「1年以上2年未満を沖縄に移住すること」という条件でなければ、1円も支援がありません。よって、つなぐ光では、行政と民間との連携という観点において、1年ではなく、1ヶ月程度の沖縄県への避難を希望するご家族を受け入れております。

そして、つなぐ光は、3月18日以降、すでに活動期間は9カ月目に入りました。しかし、世論的には、徐々に大震災が忘れられ始めており、9月以降、我々の活動財源である寄付金が集まらない状況が続いております。支援活動を継続するために、我々は日々、ブログを通じて募金箱の設置や募金の呼び掛けを行っておりますが、なかなか芳しくない状況です。折角の機会をいただいた「3月までの受入れ体制」を維持することが難しい予測です。

つきましては、お困りであるより多くのご家族を支援するため、この文章をお読みくださった皆様に避難者受け入れ活動のご協力をお願い申し上げる次第です。

添付いたします書類をご覧頂き、ご検討の程、何卒よろしくお願いいたします。